



H.Suga

THE NAKAYAMA KINEN

第98回 中山記念 (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 67,000,000円 27,000,000円 17,000,000円 10,000,000円 6,700,000円
付加賞 1,134,000円 324,000円 162,000円



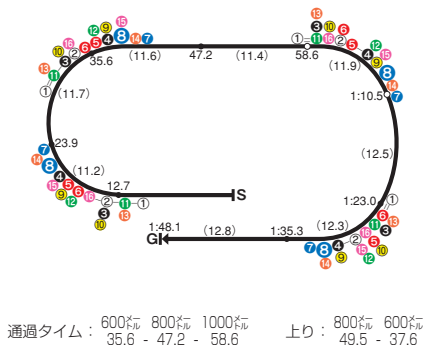
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4 歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量、4 歳56^{kg}・5 歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2023.2.25以降G I 競走(牝馬限定競走を除く) 1 着馬2^{kg}増、牝馬限定G I 競走またはG II 競走(牝馬限定競走を除く) 1 着馬1^{kg}増、2023.2.24以前のG I 競走(牝馬限定競走を除く) 1 着馬1^{kg}増(ただし2 歳時の成績を除く)

2024.2.25 中山 小雨・稍重 芝1800^m (国産) (限定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600 ^m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	マテンロウスカイ	騾5	57	横山典弘	1:48.1	3-3-3-2	37.2	484(±0)	16.1	⑦ 松永幹夫(栗東)	114
2	⑦	ドーペネ	牡5	57	吉田隼人	2	1-1-1-1	37.9	470(-12)	35.6	⑩ 武幸四郎(栗東)	110
3	④	ジオグリフ	牡5	58	戸崎圭太	クビ	4-5-6-4	37.3	516(+12)	10.04	木村哲也(美浦)	112
4	③	ゾールオリエンス	牡4	58	田辺裕信	½	11-12-13-12	36.4	466(±0)	3.41	手塚貴久(美浦)	113
5	⑬	マイネルクリソーラ	牡5	57	津村明秀	1½	14-14-13-14	36.6	460(+2)	63.3	中野栄治(美浦)	112
6	⑪	タイムトゥヘヴン	牡6	57	大野拓弥	½	14-14-13-12	36.7	494(+4)	201.5	戸田博文(美浦)	113
7	⑨	エルトンパローズ	牡4	57	西村淳也	クビ	6-5-4-4	38.0	522(+8)	3.52	杉山晴紀(栗東)	113
8	⑫	ホウオウリアリティ	牡6	57	菅原明良	1¼	10-10-11-9	37.3	486(±0)	311.0	高木 登(美浦)	113
9	⑩	ラーグルフ	牡5	57	三浦皇成	½	11-12-11-9	37.4	502(+2)	38.7	宗像義忠(美浦)	113
10	⑪	ボーンティスウェイ	牡5	57	木幡巧也	1	8-7-6-6	38.2	494(+4)	35.7	牧 光二(美浦)	113
11	⑥	ヒシイグアス	牡8	58	R.キング	ハナ	6-7-8-9	37.9	498(+13)	7.23	堀 宣行(美浦)	113
12	②	ソーヴァリアント	牡6	57	武 豊	アタマ	11-10-9-6	37.8	520(+22)	11.1	大竹正博(美浦)	113
13	⑭	エエヤン	牡4	57	M.デム-ロ	クビ	2-2-2-2	38.8	492(+2)	33.2	伊藤大士(美浦)	113
14	⑮	テオオーシリウス	牡6	57	永野猛蔵	4	4-3-4-6	39.2	472(+4)	172.0	奥村 豊(栗東)	113
15	①	レッドモンレーヴ	牡5	58	横山和生	4	16-16-16-16	37.2	512(+14)	17.2	蛸名正義(美浦)	113
16	⑬	イールシグバンサー	牡6	57	岩田望来	大差	8-9-9-14	42.3	484(+4)	11.3	久保田貴士(美浦)	113

単勝⑧1,610円(7^{kg}) 複勝⑧510円(7^{kg}) ⑦840円(12^{kg}) ④410円(5^{kg}) 枠連④-⑧17,570円(31^{kg})
馬連⑦-⑧17,350円(46^{kg}) ワイド⑦-⑧4,520円(48^{kg}) ④-⑧2,650円(32^{kg}) ④-⑦5,950円(57^{kg})
馬単⑧-⑦33,850円(91^{kg}) 3連複④-⑦72,980円(188^{kg}) 3連単⑧-⑦-④542,050円(1,160^{kg})
5重勝④⑩⑪①①1,866,620円(247票) 対象競走：阪神10R/中山10R/小倉11R/阪神11R/中山11R



通過タイム：600^m 800^m 1000^m 上り：800^m 600^m
35.6 - 47.2 - 58.6 49.5 - 37.6

アラカルト

- ・横山典弘騎手はダノンキングリーで制した20年に続く中山記念6勝目で、自身の持つ本競走の最多勝利騎手記録を更新。また56歳0カ月3日での勝利は騎手のJRA重賞最年長勝利記録。JRA重賞は通算187勝目
- ・松永幹夫調教師は中山記念初勝利。JRA重賞は通算23勝目
- ・モリス産駒はJRA重賞通算17勝目
- ・驕馬の勝利は02年トウカイポイント以来22年ぶり、通算2回目
- ・枠連17,570円、ワイド5,950円、3連複72,980円、3連単542,050円は各方式における本競走の最高払戻金額
- ・非抽選馬 2頭(グリュネーグリーン、ショウナンマグマ)
- ・マテンロウスカイは大坂杯(GI)に優先出走できる

マテンロウスカイ *Matenro Sky*

騾 栗毛 2019.2.5生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・寺田千代乃氏 栗東・松永幹夫厩舎
馬名意味・摩天楼+空

ディクシースブラッシュUSA系 F3-D

モーリス 鹿毛 2011	スクリーンヒーロー 栗毛 2004	グラスワンダーUSA ランニングヒロイン
	メジロフランシス 鹿毛 2001	カーネギーIRE メジロモントレー
レッドラヴィータ 栗毛 2011	スペシャルウィーク 黒鹿毛 1995	サンデーサイレンスUSA キャンペンガール
	ディクシージャズ 鹿毛 1999	トニービンIRE ディクシースブラッシュUSA

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4
Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

高見優也 厩舎長（ノーザンファーム空港）

いい乗り味をしていました

育成時からテンションは高めながらも、いい乗り味をしていました。昨年の夏は牧場で調整を行ったのですが、2歳時よりも動きがしっかりとしており、去勢の効果もあったのか以前より落ち着きも出ていました。4度目の重賞挑戦となりましたが、マテンロウスカイをよく知る横山典弘騎手が、馬の気持ちを尊重してくれたことが勝利につながったと思います。

R.Kaji



2歳夏の初陣を5馬身差で圧勝し、前途に期待が膨らんだ本馬だが、気性難も響いて足踏みが続き、3歳時の秋に去勢。その効果が出始めた昨年の秋頃から落ち着きを増して軌道に乗り、喜れるリゲルSでオープン初勝利を挙げた。5歳初戦の東京新聞杯は5着に敗れたものの、この日は2日前に56歳の誕生日を迎えたベテランのリードに応えて鮮やかに変身。天空に向けて飛躍の一步を踏み出した。

父モーリス

北海道日高町 戸川牧場生産 中央、香18戦11勝(天皇賞(秋)^{G1}、香港C^{G1}、香港マイル^{G1}、チャンピオンズマイル・香^{G1}、安田記念^{G1}、マイルチャンピオンシップ^{G1})、年度代表馬、最優秀短距離馬、特別賞、17年から日、豪で供用〔代表産駒〕ヒトツ Hitotsu(ヴィクトリアダービー・豪^{G1}、オーストラリアンジュニー・豪^{G1}、ATCダービー・豪^{G1})、マズ Mazu(ドゥームベン10000・豪^{G1})、ジャックドール(大阪杯^{G1})、ピクシーナイト(スプリンターズS^{G1})、ジェラルディーナ(エリザベス女王杯^{G1})、ノースブリッジ(アメリカジョッキークラブC^{G1})、マテンロウスカイ(本馬)、ディヴィーナ(アイルランドトロフィー府中牝馬S^{G1})、シュトラウス(東京スポーツ杯2歳S^{G1})、シゲルピンクルービー(フィリーズレビュー^{G1})、バンクマウア Bank Maur(アリストークラークS・豪^{G2})、他に重賞勝ち馬多数

母レッドラヴィータ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央25戦3勝
ベストシンガー(18 牝父ロードカナロア)中央12戦1勝
マテンロウスカイ 本馬(19 騾父モーリス)中央17戦5勝(中山記念^{G1}、リゲルS・L、難波S、メイS^O2着、エプソムC^{G1}3着、野路菊S^O3着)獲得総賞金178,951,000円
デュメイカズマ(20 牡父ハービンジャーGB)中央7戦0勝、地方5戦1勝
キャネル(21 牡父ブリックスアンドモルタルUSA)中央4戦0勝 ㊤
(22 牝父ドレフォンUSA)
(23 牝父モーリス)

祖母ディクシージャズ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央0勝、15年死亡
アドマイヤプレミア(07 牡父クロフネUSA)中央2勝
レッドディヴィス(08 騾父アグネスタキオン)中央5勝(鳴尾記念^{G1}、毎日杯^{G1}、シンザン記念^{G1}、大阪ハンブルクC^O)
レッドヴォーグ(09 牝父シンボリクリスエスUSA)中央0勝、ギャレット(若鮎賞)の母
ヒカルエリントン(10 牡父ダイワメジャー)中央1勝、地方3勝
レッドラヴィータ(11 前出)
ピッツィカート(13 騾父ゼンノロブロイ)中央3勝(萬代橋特別)、地方0勝

曾祖母ディクシースブラッシュUSA

北米6勝(オーデュボンオークス2着、オークローンBCH^{G3}3着)、97年輸入、09年死亡、デルタブルース(メルボルンC・豪^{G1}、菊花賞^{G1})の母

堂々の取り口で重賞初制覇を果たす

大阪杯の前哨戦と位置付けられていた中山記念の「双璧」と目されたのは2頭の4歳馬。皐月賞を豪快に差し切った後は、悔しい足踏みが続いた昨年から巻き返しを期すソールオリエンスト、一線級の古馬を下して毎日王冠に優勝、続くマイルチャンピオンシップでも4着に食い込んだエルトンパロイズが1、2番人気を分けた。昨年は隔年制覇を達成、今年は連覇と、中山記念3勝目、に挑む8歳の古豪ヒシイグアスが2頭に次ぐ支持を集めたものの、レースの上位は5歳馬が独占。このうち、感星候補の1頭と目されていたマテンロウスカイが堂々の取り口で勝利を飾り、重賞初制覇を果たした。

軽快なダッシュで飛び出したドーブネが、他の逃げ候補の機先を制して先手を奪取。降り続く小雨の影響で決った馬場(稍重)に速いラップを刻んでレースを引っ張る。マテンロウスカイの横山典弘騎手は3番手のインに収まり、エルトンパロイズが背後の5番手を追走。直後の中団につけた5歳の皐月賞馬ジオグリフとヒシイグアスに対し、出足が鈍かったソールオリエンストは置かれ気味に後方4番手を進んだ。

ぬかるんだ馬場に苦しんだエルトンパロイズ、ヒシイグアスは早々に手応えを失って失速。ソールオリエンストもエンジンのかかりが遅く、迎えた直線は単騎で快調に逃げたドーブネと、4コーナーでこれに並びかけていったマテンロウスカイ、ジオグリフの争い。なかでもマテンロウスカイは一枚上の末脚を発揮。坂上で先頭に抜け出すと、2着に粘り込んだドーブネに2馬身差をつけてゴールに飛び込んだ。